

第 6 回 S G R A チャイナ・フォーラム
「Sound Economy ～私がミナマタから学んだこと～」

講演 柳田耕一氏（水俣病センター相思社初代事務局長）

【1】北京フォーラム

日 時：2011 年 9 月 23 日（金）午後 7 時
会 場：国際交流基金北京日本文化センター

【2】フフホトフォーラム

日 時：2011 年 9 月 26 日（月）午後 3 時
会 場：内モンゴル大学学術会議センター第 8 会議室

主 催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）
協 力： 国際交流基金北京日本文化センター
北京大学日本語文化学部
内モンゴル大学モンゴル学研究センター

フォーラムの趣旨

SGRA チャイナ・フォーラムは、日本の民間人による公益活動を紹介するフォーラムを、北京をはじめとする中国各地の大学等で毎年開催しています。

昨年は認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク事務局長の高見邦雄氏に鉱山開発と北京の水問題について講演していただきました。6 回目の今回は、元（財）水俣病センター相思社事務局長の柳田耕一氏を迎え、グローバルな視点から、水俣でおきた人類史的な事件の事実と意味についてご講演いただきます。フォーラムは日中逐次通訳付き。

講演要旨

水俣病は 20 世紀半ばに発生した世界で知られる環境問題の一つです。それは日本の南部の漁村で発生しました。当初、被害者は劇症型の病像を呈していたため「奇病」として恐れられ、隔離されるなどの酷い仕打ちを受けました。折から日本は戦後の復興期の入り口にあり、僻遠の地に救済の手が差し伸べられるまでには長い時間がかかりました。

公式発見から半世紀経った現在でも、抜本的な治療法は無く、被害の全体像の解明は進まず、地域経済は疲弊したままです。一方で水銀による環境汚染は世界中に広がり、酷似した症状をもつ人々も出現し、Minamata Disease は世界共通語となっています。現在では微量水銀の長期摂取による健康影響に世界の関心は向かっています。

もう一つの側面として関心がもたれているのは、社会経済的分野です。開発重視、科学重視、利益重視、人権無視の経済運営は、生活の基盤である環境を歪め傷つけ最後には地域社会そのものを持続不可能にしてしまいましたが、その象徴として水俣病事件を捉えることもできます。

講師 柳田耕一氏

現職：特定非営利活動法人 地球緑化の会 副会長兼事務局長
モンゴル国ダルハン農業大学名誉教授
株式会社ティエラコム監査役

略歴：1950 年熊本市生まれ。1973 年東京農業大学中退。学生時代より水俣病被害者支援運動に参加。日本初の市民運動型財団・水俣病センター相思社の設立運動に参加し、1974 年の設立と同時に初代の事務局長に就任。以来、水俣現地に於いて、水俣病発掘や裁判支援、様々な資料作成やイベントの企画などに関わる他、有機農法運動やフリースクール運動を立ち上げる。1989 年相思社を退職し、その後いくつかの環境 NGO に関わる。1996 年より神戸に本社を置く民間企業の役員に就任する一方、環境 NGO 運動も継続し現在に至る。これまで 100 回以上に渡り、植林や環境問題調査目的で多くの国を訪問し NGO や市民と交流し、ミナマタの経験を伝える活動を行ってきた。水俣病問題や地球環境問題に関する著書あり。